

洗剤等の出荷実績概況

2014年(平成26年度)1月～12月

(出荷単位:t・%:前年同期比)

2014年度(1-12月)日本クリーニング用洗剤同業会(以下当同業会という。)に加盟する13社の出荷実績は36,153トンとなり前年比で225トン減の99.4%でありました。微減とはいえ、2年連続の前年割れとなっており、当同業会としても厳しい状況と言えます。

(全体コメント)

当同業会の顧客は①ホームクリーニング②テキスタイルリネンサプライ(リネンサプライ・病院寝具・ダスコン・ダイアパー4団体)③おしぼり業者④施設ランドリーであります。

1. (ホームクリーニング)

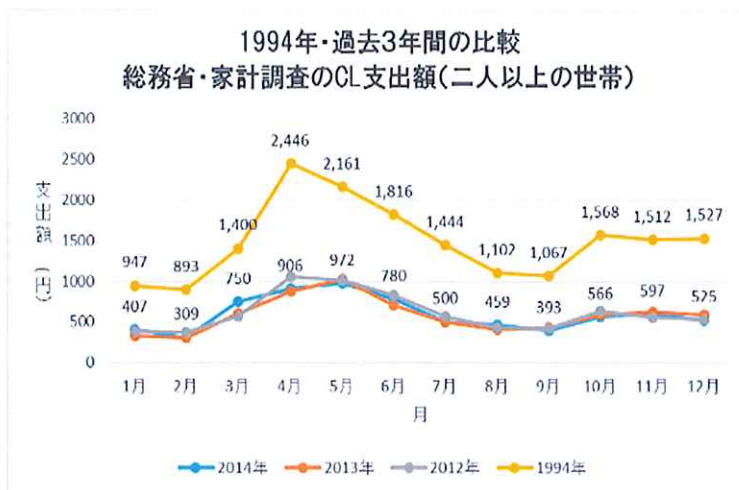
ホームクリーニングにおいては、2014年度1-12月度は総務省統計局『家計調査報告』によると一世帯あたり(二人以上の世帯)のクリーニング代支出額は、7,164円と前年比176円増の102.5%となりました。但し、4月以降の消費税増税後の税額分3%を差し引くと6,993円となり前年とほぼ同額で、9月以降は4ヶ月連続の前年割れとなりました。

このホームクリーニング市場の縮小傾向は、繊維製品の素材変化に伴う家庭洗濯に対応した衣類の広がりに加え、昨年の消費税増税後に家計支出の節約によるホームクリーニングへの出し控えが大きな原因であると推察いたします。更に、当同業会の販売先であるホームクリーニングを主とする卸売業者の会社清算・廃業が増加している傾向は深刻です。

(グラフー1)

右(グラフー1)から、1994年から過去3年間を月別に評価すると、全体的に減少傾向は言うまでもなく、春・秋の衣替えシーズン需要期の落ち込みが大きく、クリーニング代支出額の減少に大きく影響。

これにより、当同業会の特にドライ及びシミ抜き製品と店頭・外商販売による再販用合成洗剤の出荷量激減は深刻で継続的に課題を残す結果となりました。



出典:総務省統計局『家計調査報告』

2. (テキスタイルリネンサプライ市場)

一方、テキスタイルリネンサプライ市場は、成熟市場の中、ホテルは増加傾向・病院寝具は安定市場であります。ダスコン・ダイアパーの市場規模は微減傾向と推察しております。

2. -1) (ホテル市場)

ホテルリネン市場は、旅館数の減少や高級ホテルの稼働の伸び悩みがあったものの、都市圏を中心とした宿泊特化型ホテルの施設数が増加傾向にあり、市場規模としては増加傾向にあると推察します。

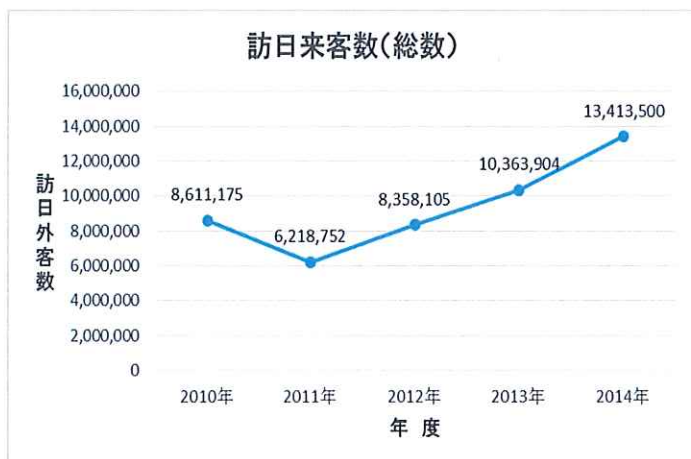
また、昨年からの円安進行・2011年の震災からの復興が進み、昨年は海外訪日客数および国内旅行者数の増加により、都市圏を中心にホテル稼働率が増加傾向であったと推察いたします。特に、海外訪

訪日客数は台湾・韓国・中国という近隣国の訪日客数が増加傾向にあり、ホテル稼働率の回復に大きく影響を与えたと推察いたします。

訪日客数(総数)と主要国の傾向は 2011 年の震災後、下のグラフ2・3から大きく V 字回復しており、2014 年は 305 万増の 1,341.35 万で、更に 2020 年東京開催オリンピック・パラリンピックに向かい増加傾向が継続すると推察いたします。

当同業会としては、ホテル宿泊者に対し、洗浄技術を生かしたリネンの『白さ』と『衛生』を両輪で訴え、顧客とともに『リネン品の日本品質』が世界のトップレベルであることを示していくことに取り組んでまいります。

(グラフ-2)



(グラフ-3)



* 出典: 日本政府観光局(JNTO)訪日客数

2. -2) 病院リネン関連

病院リネン関連(病院寝具・ダイアパー「貸しオムツ」以下当業界という。)市場に大きく関連する病床数は、170 万床前後と推察いたします。一般病床 89 万床前後・療養病床 33 万超と高齢化社会の背景の中で安定的な市場と推察いたします。この分野は、今後も継続的な高齢化社会に向かい、特に療養病床数不足が課題であり、政府等の支援拡大が本格化すれば成長が期待されると推察いたします。特に、この分野は医療事業機関等の衛生に関する関心と監視が高まっており、当業界としても今後の対応に注意が必要となってきております。

ダイアパーは貸しオムツから老人用紙おむつへと緩やかでありますますが代替が起きていると推察されます。しかしながら、エコ意識が高まり紙おむつとの品質優位性を実現できれば、代替の回避は可能であると期待しております。

2. -3) ダストコントロール

ダストコントロール市場はテキスタイルリネンサプライ市場の約半分を占める市場で、景気停滞による需要の減少傾向が継続し、リース離れや交換期間の延長、家庭向けモップリース製品の他流通からの購入へ移行、更に他のリネン分野からの参入などにより、価格競争が激化し厳しい市場環境にあると推察いたします。

特に、この市場は、マット・モップの使用上の特徴から超ハード汚れを洗浄する技術が求められており、更には多種多様な素材変化に対応していくことも近年重要になりつつあります。当同業会としては、高度な洗浄技術を提供し、課題解決に向けた取組を推進していく考えであります。

3. 2014 年度総計・タイプ別出荷状況報告

3. -1) 全項目別総計出荷報告(2010 年～2014 年)

年度	ドライ用				ランドリー用				再販用		出荷 総合計	前年比	
	パーク系	エタン系	フロン系	石油系	石鹸	合成洗剤		ソフター	粉末 漂白剤	合成洗剤			
						粉体	液体						
2014年	186	0	43	1,044	370	17,634	7,988	4,877	1,500	1,466	1,045	36,153	99.4%
2013年	216	0	51	1,087	392	17,660	7,841	4,872	1,522	1,614	1,123	36,378	96.7%
2012年	253	0	47	1,112	466	18,329	7,833	5,002	1,597	1,751	1,231	37,621	103.7%
2011年	275	0	52	1,155	417	17,538	7,412	4,955	1,512	1,739	1,221	36,276	98.3%
2010年	309	0	53	1,233	495	17,394	7,563	5,118	1,574	1,831	1,325	36,895	101.4%

『2014年度(1-12月)日本クリーニング用洗剤同業会(以下当同業会という。)に加盟する13社の出荷実績は36,153トンとなり前年比で225トン減の99.4%でありました。微減とはいえ、2年連続の前年割れとなっており、当同業会としても厳しい状況と言えます。』(1P記述と同様)

3. -2)ドライ用洗剤

項目 / 年度	1994年	2004年	2013年	2014年 (上期)	2014年 (下期)	2014年	前年比
ドライクリーニング用洗剤(パーク系)	1,520	705	216	101	85	186	86.1%
ドライクリーニング用洗剤(フッ素系)	563	31	51	27	16	43	84.3%
ドライクリーニング用洗剤(石油系)	1,811	1,778	1,087	578	466	1,044	96.0%
ドライクリーニング用洗剤(エタン系)	205	0	0	0	0	0	
ドライ合計	4,099	2,514	1,354	706	567	1,273	94.0%

下のグラフ4・5の通り、ドライ用洗剤は20年前の1994年から2,826トン減、更に2004年には1,241トン減となり、ホームクリーニングの収益性の高いドライクリーニングの激減が継続しております。

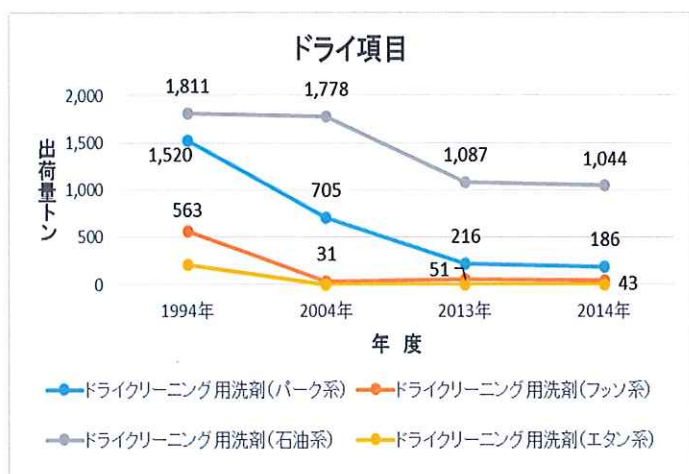
パーク系の出荷量は、この20年で12%まで減少し、その減少度合いは悪い意味で安定的といえ、パーク系ドライ市場の未来は非常に暗い状況となっております。

石油系は2003年まではパーク系の減少分を石油系へ転換することで、出荷量は持ちこたえておりました。しかしながら、この10年では減少に転じ、2003年の59%まで減少しました。石油系の減少傾向は今後も継続すると推察しており、建築基準法の安全対策に基づく対応策のひとつとして、洗濯方法を繊維に応じたウエットクリーニングへ移行するクリーニング店が緩やかではありますが広がっていることも影響していると考えております。

フッ素系に関しては昨年より、出荷量は減少しました。ここ数年のトレンドは、横ばい傾向でありましたので、今年の出荷状況確認が必要と考えております。

(グラフ4:1994・2004年～2013・14年
ドライ項目出荷量)

(グラフ5:1992年と過去5年のドライ出荷量)



3. -3)ランドリー石鹼

項目 / 年度	1994年	2004年	2013年	2014年 (上期)	2014年 (下期)	2014年	前年比
ランドリー石鹼	2,504	789	392	182	188	370	94.4%

ランドリー石鹼の減少はランドリー用合成洗剤への移行が、この20年で急速に進んだ結果、出荷量は約15%まで減少しました。ランドリー石鹼の減少傾向は今後も継続すると予測しております。ただし、石鹼の特徴を再発掘し、洗濯現場に活かす事ができればトレンドに歯止めを掛けられる可能性は十分に残されていると考えております。

3. -4)ランドリー用合成洗剤

項目 / 年度	1994年	2004年	2013年	2014年 (上期)	2014年 (下期)	2014年	前年比
ランドリー用合成洗剤(粉末)	17,533	19,420	17,660	8,485	9,149	17,634	99.9%
ランドリー用合成洗剤(液体)	6,374	8,274	7,841	3,840	4,148	7,988	101.9%
ランドリー用合成洗剤 計	23,907	27,694	25,501	12,325	13,297	25,622	100.5%

ランドリー用合成洗剤は微増となりましたが、下のグラフ6の通り、ここ数年のトレンド通り横ばい状況と考えられ、安定した分野になりつつあると推察しております。

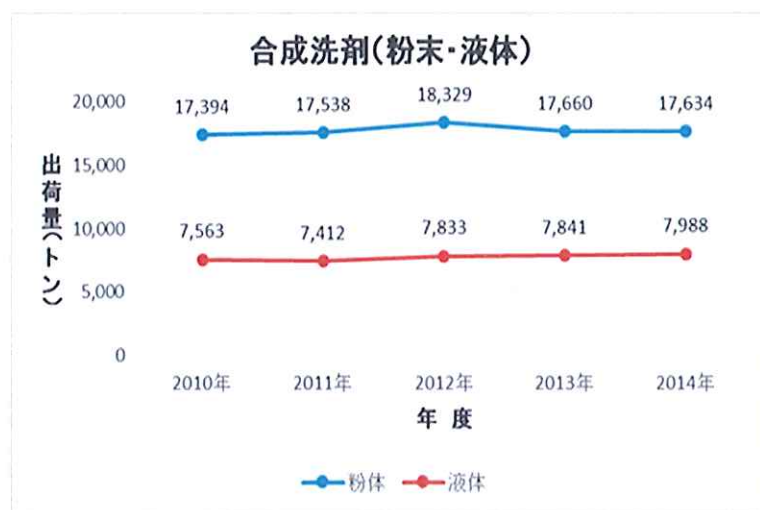
テキスタイルリネンサプライでは、ホテルの稼働率が高く、更に安定的であったことが、出荷量の前年維持に寄与したと推察いたします。また、病院寝具・ダスコン市場も安定であり、全体として出荷量増となったものと推察します。

尚、ランドリー用液体合成洗剤は、自動投入装置対応として期待される商品であり、粉末洗剤同様に出荷量が増加しました。液体洗剤を使用するコインランドリー施設(13年 16,693 11年 15,985 104.4%)の増加傾向は継続していると推定され、また介護施設内ランドリー(自動投入機設置洗濯機の使用)での使用増も増加要因と推察しております。

今後もコストメリットや生産安定化に寄与できると判断される要素が増えていくと、テキスタイルリネンサプライ市場での使用実績も増加するものと推察します。

2010年からの傾向で見ましても、ランドリー用合成洗剤はテキスタイルリネンサプライ市場の安定的な維持により、安定に推移していると判断しております。ホームクリーニング市場においても、ランドリー用合成洗剤の落ち込みはドライクリーニング用洗剤程ではなく、微減に留まっているものと推察しております。

(グラフ6: 過去5年の合成洗剤(粉末・液体)出荷量)



3. -5)ランドリー用ソフター・漂白剤・合成糊剤

項目 / 年度	1994年	2004年	2013年	2014年 (上期)	2014年 (下期)	2014年	前年比
ランドリー用ソフター 計	5,627	5,630	4,872	2,336	2,541	4,877	100.1%
(うち濃縮タイプ)			792	391	401	792	100.0%
濃縮タイプ4倍換算	0	0	3,168	1,564	1,604	3,168	100.0%
汎用タイプ換算合計	5,627	5,630	7,248	3,509	3,744	7,253	100.1%
濃縮タイプ使用率	0.0%	0.0%	43.7%	44.6%	42.8%	43.7%	100.1%

項目 / 年度	1994年	2004年	2013年	2014年 (上期)	2014年 (下期)	2014年	前年比
ランドリー用粉末漂白剤	2,437	1,759	1,522	705	795	1,500	98.6%

項目 / 年度	1994年	2004年	2013年	2014年 (上期)	2014年 (下期)	2014年	前年比
合成糊剤	2,136	1,830	1,123	499	546	1,045	93.1%

ランドリー用ソフトナー・粉末漂白剤・合成糊剤出荷量の過去5年間の傾向は下のグラフ7の通りで、ランドリー用ソフトナーはほぼ横ばいの状況です。メインの使用分野であるテキスタイルリネンサプライ市場が堅調に推移したことが、前年維持につながったものと考えております。

濃縮タイプについても安定的に推移し、前年維持しました。しかしながら、濃縮タイプの利便性は受け入れられつつあると考えており、今後も従来タイプから濃縮タイプへ移行していくものと推察いたします。

20年間の長期トレンドでは出荷量統計は減少傾向となっておりますが、濃縮タイプへの移行により、実質的には拡大しているものと推定しております。当同業会の技術革新により、濃縮タイプ柔軟剤は、繊維に『柔軟性』『帯電防止性』付与するだけでなく、『抗菌性』『平滑性』『すべり性』を付与する機能剤として、今後も拡大していくものと期待しております。

ランドリー用粉末漂白剤は前年比98.6%と減少しました。近年は減少傾向が継続しており、粉末漂白剤の主ユーザーであるホームクリーニング市場とリンクしているものと推察しております。

20年間の傾向を見ましても、ランドリー用粉末漂白剤は減少傾向が継続しており、ホームクリーニングで使用される洗剤がワンショット洗剤へ移行しており、ホテル・病院等のリネンサプライでは過酸化水素(液体漂白剤)の使用へ移行したことが、大きく影響しているものと推察しております。

合成糊剤に関しては前年比93.1%と長期下落トレンドが継続していると考えます。シーツやYシャツ等に対し、ソフトな仕上げが好まれる傾向にあり、出荷量は今後も減少傾向にあると推察します。

(グラフ7:2010年～2014年
ランドリー用ソフトナー・粉末漂白剤・合成糊剤出荷量)



3. -6)再販用合成洗剤

項目 / 年度	1994年	2004年	2013年	2014年 (上期)	2014年 (下期)	2014年	前年比
再販用合成洗剤 計	7,443	3,897	1,614	623	843	1,466	90.8%
(うちコンパクト)	1,766	1,830	786	289	431	720	91.6%

再販用合成洗剤につきましても、下のグラフ8・9の通り、1996年より長期の減少傾向に変わりはないと考えます。1994年頃はプロが推奨する洗剤として、店頭・訪問販売により安定的な出荷でありましたが、年々市販品との競争が激化し、減少傾向に歯止めが掛かっていない状況といえます。比較的好調に推移しておりました濃縮タイプも前年92%と減少傾向が継続しております。市販の粉末合成洗剤の低価格、利便性に加え、贈答品には粉末タイプに液体タイプも加わり市販ギフト品が使用される傾向にあり、今後もこのトレンドは継続するものと推測します。

(グラフ-8:1994年・過去3年
再販用合成洗剤出荷量)(グラフ-9:1996年・過去5年
再販用合成洗剤と出荷量総合計)

4.まとめ

当同業会の出荷総計では前年比 99.4%という結果でありました。円安の影響により、ホテルリネンでは海外からの集客により好調に推移する一方、消費税増税の影響によりホームクリーニング市場は冷え込んでいるものと推察され、分野により好不調がはっきりした年であったと感じております。テキスタイルリネンサプライ市場での使用が大きいメインのランドリー洗剤が前年 100.5%と前年を維持した出荷量となり、全体としては微減という結果となりました。

この市場ごとで明暗が分かれている結果において当業界としては、特にドライクリーニング用洗剤の下落傾向に歯止めがかからない状況については深刻に捕らえております。ホームクリーニング業界として需要拡大策を講じない限り下落トレンドは継続すると思われ、特に春・秋の需要期売上拡大策等による一世帯当りのクリーニング支出代金下落トレンドへの歯止めを掛けることが急務と考えております。

以上